

〈3〉 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。

図書館をメディアテーク・キャンパスの中心施設として再整備するために、横浜キャンパスマスタープランの4つの方針に基づき改修の構想をまとめ、2013年度末に提案した。

年度毎に策定している図書館基本方針では、多様な学生に対する多様な学習支援について、施設設備の整備及び利用者サービスの両面からの展開を検討し、可能なところから実施し、将来構想実現へ向けて取り組んでいる。図書、学術雑誌、電子ジャーナルの整備状況等については、根拠資料のとおり十分な図書を保有している《資料Ⅶ-8 No.18～20》。各種二次情報及び電子コンテンツ全文等を搭載した国内外のデータベース54種を導入し、各学部学科等における必要性をカバーしている《資料Ⅶ-2 No.46》。利用者用パソコンは、デスクトップ型とノート型を合わせて横浜図書館120台、平塚図書館83台設置している。国立情報学研究所との連携においては、CiNi (NII 学術情報ナビゲータ) は機関定額制契約を結んでおり、NACSIS-CAT、NACSIS-ILL、学術機関リポジトリポータル JAIRO に参加し、学術情報ネットワークの充実を図っている。特に図書館ホームページでは、契約している電子資料のタイトルに加え、国内外の政府等の発信する統計や記録等の情報公開サイトへのナビゲートを行い、学術情報へのアクセスの向上を図っている。神奈川大学蔵書検索ツールであるOPACでは、利用者によるオンラインでのILL相互貸借申込み、貸出状況の確認、貸出中図書及び他キャンパス図書館所蔵図書の貸出予約、貸出期間の延長機能を付加している。また、研究環境の向上のため教職員にはVPN認証により自宅等、学外からの各種契約電子資料の利用を実現している。他に、神奈川県内大学図書館相互協力協議会、横浜市内大学図書館コンソーシアムに加盟し、加盟館相互に訪問利用を可能としている。なお、神奈川県内大学図書館相互協力協議会については、2015年度に神奈川県図書館協会と組織を統合することとなっている。2015年度からは神奈川県図書館協会に加盟する大学図書館間の相互協力として事業が継続される予定である。また、通常のILLとは別に神奈川県立図書館、平塚市図書館との協定により相互に所蔵の無い資料の現物貸借を行っている。

学生に対する学術情報サービスにおいて、資料の収集とともに重要な要素となっている情報リテラシー教育に関しては、「FYS」における「授業への取り組み—情報探索と問題発見 図書館利用ガイド」で新生入生に対し1コマ(90分)を図書館利用方法と情報探索の授業に充て、図書館職員の作成した情報リテラシーテキストを用い、主に図書館職員が専門性を生かして担当している《資料Ⅶ-9》。各担当教員の判断により、別途授業における図書館ツアーや検索実習なども図書館職員が協力して行っている。また、特定のテーマについて、関連する資料・情報の入手方法をまとめたパスファインダーを作成し、配付すると同時にホームページからも閲覧できるようにしている。《資料Ⅶ-2 No.46》